

SUSTAINABILITY COMMUNICATION BOOK 2024



丸善石油化学株式会社

〒104-8502 東京都中央区入船二丁目1番1号
TEL 03-3552-9361 FAX 03-5566-8391
URL <https://www.chemiway.co.jp>

【本ブックのお問い合わせ先】
CSR 統括部 TEL.03-3552-9361 FAX.03-5566-8391



くらしと産業の健全な発展のために

Making Progress & Challenge

～人と化学で新時代を切り拓く～

SECTION 1 カバーストーリー

1

- 01 くらしと産業の健全な発展のために
- 02 くらしを支える、丸善石油化学の役割
- 03 丸善石油化学が生み出す価値の広がり
- 05 丸善石油化学の事業

SECTION 2 価値創造への道

2

- 07 丸善石油化学の長期ビジョン
- 08 非財務中期経営計画
- 09 ステークホルダーの皆様へ～トップメッセージ～

SECTION 3 実現に向けた取り組み

3

- 13 実現に向けた取り組み
- 15 気候変動対策
- 17 クリーンなエネルギー・製品・サービスの提供
- 19 人材の活躍推進・健康増進・働きがいの向上
- 23 安全操業・安定供給（デジタル変革(DX)）
- 27 ステークホルダーエンゲージメント

SECTION 4 当社のご紹介

4

- 29 サステナビリティ推進体制
- 30 会社概要
- 31 丸善石油化学のあゆみ
- 32 拠点紹介

編集方針

当社のサステナビリティレポートは、ステークホルダーの皆様様に、サステナビリティの推進体制や取り組みを、わかりやすくお伝えすること、および化学物質を取り扱う企業として、当社製品を安全・安心に使っていただくために、環境や安全に関するデータを公開することを目的として作成しています。

本ブックでは、特に、お伝えしたい取り組みについて、イラストや写真などを用いて掲載しています。その他の取り組みや環境データなどについては、丸善石油化学「サステナビリティサイト」および同サイト内の「データ集」にて公開しておりますのであわせてご覧ください。

サステナビリティサイト：
<https://www.chemiway-csr.jp/>

データ集はサステナビリティサイトに掲載しています。

サステナビリティコミュニケーションブック2024の対象

期間：2023年4月1日～2024年3月31日
（一部この前後の期間を含みます）

範囲：丸善石油化学の本社（東京都）、千葉工場・研究開発センター・機能性樹脂技術開発センター（千葉県）および四日市工場（三重県）における活動



表紙について

天気の良い日に、第4エチレン製造装置を工場敷地の奥側（海側）から撮影しました。大型の設備や配管が並ぶ敷地内にも青空や植物を感じる穏やかな景色があります。

1. カバーストーリー

2. 価値創造への道

3. 実現に向けた取り組み

4. 当社のご紹介

コスモ石油

石油精製会社。原油から精製したナフサや、灯油、軽油、ガソリン留分を供給。

基礎化学品事業

石油化学基礎製品

ナフサから製造。
エチレン、プロピレン、ブタジエン、ベンゼン、トルエン、キシレンなど

機能化学品事業

化成品

石油化学基礎製品の生産過程で産出される留分・抽出する副生成物から製造。
ポリエチレンなどの樹脂
メチルエチルケトンなどの溶剤

半導体レジスト用樹脂など

ナフサに依存しない樹脂製品。
半導体レジスト用樹脂など

丸善石油化学

エチレンセンター

誘導品 各社工場

各メーカー

プラスチックなど

合成繊維など

合成ゴムなど

塗装・溶剤など

合成洗剤
界面活性剤

半導体
レジスト用樹脂

WHAT WE DO

くらしを支える、丸善石油化学の役割

丸善石油化学の事業は、ナフサ分解により生産される基礎化学品と、その副産品から生産される溶剤やナフサに依存しない樹脂製品を製造・販売する機能化学品の2本柱で展開しています。ナフサを最後まで無駄なく製品化しながら、素材としての石油化学製品の総合的な開発に取り組んでいます。

消費者

VALUE CREATION PROCESSES

丸善石油化学が 生み出す 価値の広がり

丸善石油化学は、日常に不可欠な石油化学製品を安定的に供給し続けるとともに、社会に貢献する多様な製品・サービスの提供を通じて、新たな価値を創造することで、くらしと産業の健全な発展に貢献します。

長期ビジョンでは、目指すべき社会の姿に貢献していくために、当社の2050年の在りたい姿、そして、それを実現するための2030年のゴールを定めました。P.7

※2023年度 従業員による策定プロジェクトにて決定

第7次中期経営計画(2023年度～2025年度)のスローガンは「変革への挑戦」。従来の考えにこだわらず、変化や失敗を恐れずにチャレンジしていきます。



8つの非財務中計項目

非財務の中期経営計画を策定し、8つの注力する施策を設定して取り組んでいます。P.8

日本最大級の
コンビナート
工場立地

基礎
化学品事業

機能
化学品事業

最新鋭の
エチレンクラッカー
2体制

サプライチェーンの
川上～川下との
つながり

個人の裁量が
大きい風土

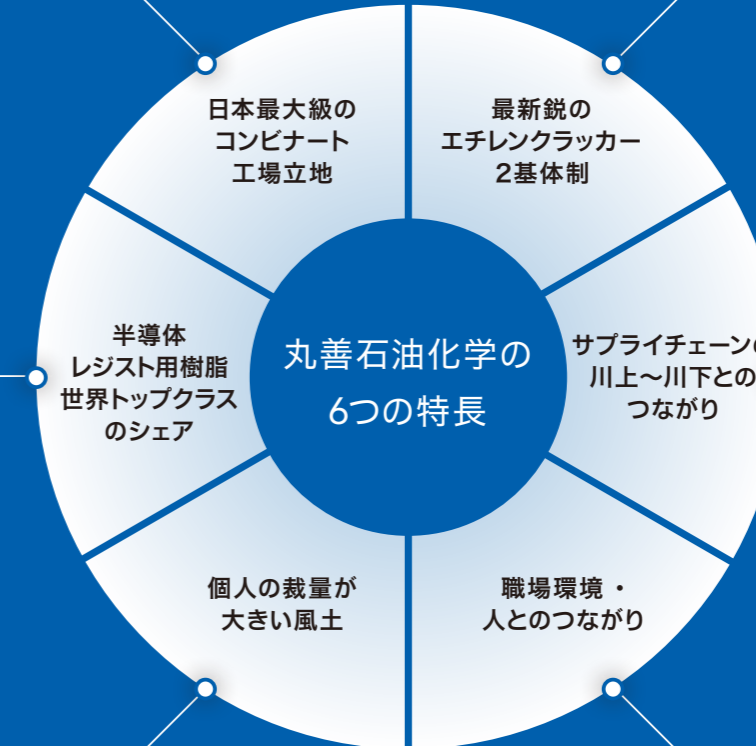
職場環境・
人とのつながり



当社は日本最大級の京葉臨海コンビナートに位置している石油化学コンビナートの中核施設です。



「コンパクトな組織であるため、個人の裁量が大きい」という共通認識があります。



第4エチレン製造装置(4EP、京葉エチレン(株))は日本最新鋭のエチレンクラッカーです。第3エチレン製造装置(3EP)も2020年に分解炉を更新したばかりの最新型です。



中途入社の社員から「人が良い。風通しが良く、挨拶も活発で、職場環境も良い」という声が多く聞かれます。

この「6つの特長」は、従業員による長期ビジョン策定プロジェクト P.7での議論を通じて導き出したものです。この特長を強みとして活かしていくことで、新たな価値創造による社会の健全な発展に貢献します。

丸善石油化学の事業

丸善石油化学の事業は、基礎化学品と機能化学品の2本を柱として展開しています。ナフサから生産されるエチレンなどの基礎化学品は、プラスチックや化学繊維、合成洗剤など幅広い製品の原料となります。機能化学品は、エチレンの製造過程で分留・抽出する副生物を有効活用し、高い付加価値を備えた多様な高機能新素材や溶剤を製造しています。また、ナフサに依存しない半導体レジスト用樹脂を事業展開しています。

基礎 化学品事業

・石油化学基礎製品

原油を精製して得られる「ナフサ」をエチレンプラントで分解し、エチレン、プロピレン、ブタジエン、ベンゼンといった石油化学品を製造・販売しています。これらの製品は、プラスチックや化学繊維、合成洗剤から自動車用部材、塗料、日用品、医療品まで、あらゆる産業を支える原料となり、現代の暮らしを

支える基礎的な石油化学品であることから「基礎化学品」と呼ばれています。

当社の千葉工場は、大消費地である首都圏に隣接し、さまざまな産業の集積地である京葉臨海コンビナートに立地し、高品質な基礎化学品を安定的に供給しています。

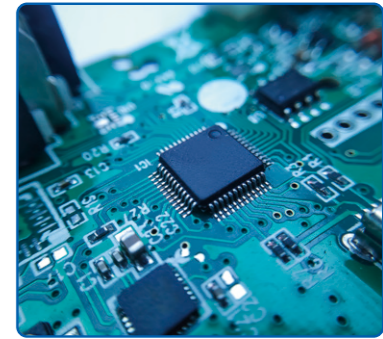


機能 化学品事業

・化成 品 ・半導体レジスト用 樹脂など

エチレン製造過程で分留・抽出される副生物には、有用な成分が多く含まれています。この副生物を活用し、生産しているのが「機能化学品」です。さまざまな分野で利用される基礎化学品に対し、特定の分野で高い性質を発揮する製品群です。

特にメチルエチルケトン(MEK)は世界トップクラスの生産能力を誇っています。また、当社独自の研究技術で新たに開発した製品も数多く上市しています。さらに半導体の製造に使われる半導体レジスト用樹脂では、世界トップクラスのシェアを誇ります。



主な最終製品



ペットボトル



タイヤ



インテリア



衣類



工業資材

主な最終製品



化粧品



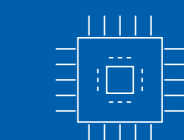
洗剤



接着剤



インク材



半導体
レジスト用樹脂

事業の特長

当社のエチレン生産量は、当社の所有するプラントと合併会社分を合わせると、単一工場では日本最大級の生産量を誇ります。京葉臨海コンビナートには、さまざまな企業の工場が集積しており、当社はコンビナート内のお客様との強いつながりを強めています。

コンビナートのお客様と培ってきた信頼関係をもとに、課題を共有しながら、お客様のニーズに合ったフレキシブルな対応ができることが、当社の強みです。

2023年度の取り組みと成果

基礎化学品事業については、円安・物価高に伴う国内需要の低迷に加え、海外需要の減少、市況の下落により、非常に厳しい事業環境でした。当社においても、為替影響や輸送コスト上昇もあり、製品輸出環境の悪化により採算性確保が難しい中、装置稼働を適切なレベルに抑えながら、合理化・効率化、コスト削減と、市況に依存しない収益改善策の検討・実施に努めました。

事業の特長

当社は、幅広い商品群と高い品質をベースとして、原料から製品までの一貫生産により、お客様からの要望にもきめ細かく対応できる機動力を持っています。

半導体レジスト用樹脂については、安定的な需要があるArF(フッ化アルゴン)や厚膜レジスト向けの製品から、最先端であるEUV(極端紫外線)向け製品まで、幅広い製造技術を有し原料から製品までの品質管理力を強化しながら、日々進歩し続けるお客様のニーズに応えています。

2023年度の取り組みと成果

機能化学品事業については、多くの製品において需要の回復がみられず、厳しい年となりました。その中で、マルカソールR(イソドデカン、イソパラフィン系溶剤)は、金属洗浄剤や化粧品用途で使用されますが、堅調な需要を示し、2025年度における生産能力増強を検討しています。

半導体レジスト用樹脂については、世界的な半導体需要が底を打ち回復に向かう中、最先端品の販売数量を伸ばすことで、収益確保に貢献しました。また、適切な設備投資も検討しています。